

第2回震災予防講演会「横浜の地震・津波をふりかえる -来るべき地震に未曾有の称号を与えないために-」報告

平成24年2月3日（金）13:00～16:30 パシフィコ横浜・アネックスホールにおいて、標記の講演会が開催されました。昨年東日本大震災が起きたこともあり、関東、横浜の地震、津波に関する関心は高く、当初150名を予定した定員を大幅に上回り、200席用意した会場がほぼ埋まるほどの盛況でした。

プログラムは以下のとおりです。

- 司会： 磯打千雅子（日本ミクニヤ(株)）
13:00-13:05 開会挨拶 川島一彦（日本地震工学会会長・東京工業大学）
13:05-13:35 “ふりかえり”の重要性:東日本大震災と関東大震災
武村雅之（小堀鐸二研究所）
13:35-14:35 東京湾における津波の経験と予測:今後の津波対策に向けて
柴山知也（早稲田大学理工学術院）
14:50-15:50 横浜の関東大震災—その時、市民は？
吉田律人（横浜市史資料室）

15:50-16:20 全体質疑

川島会長による開会の挨拶と木全事業企画委員長の趣旨説明のあと、まず武村氏から関東大震災後の多くの人々の実例を挙げながら、過去の経験の「ふりかえり」の大切さを話されました。早大柴山教授からは、神奈川県津波防災計画の見直しと東京湾で想定される津波とその対策について、最新の検討結果を含めてご紹介いただきました。休憩ののち、横浜市史資料室吉田氏から、関東大震災時に撮影された写真、映画、文献記録などから、当時の生々しい被災状況をご紹介いただきました。地震防災には地震学だけでなく、広く工学、人文学の知識、経験を集合し、さらにそれをつなぐ人々の重要性を示す講演会だったと思います。長時間にわたっての御講演、講師の先生方には心より御礼申し上げます。

なお、本講演会は、第16回「震災対策技術展」に伴って開催された講演会の一つです。



写真1 川島会長の開会挨拶



写真2 武村氏の講演



写真3 柴山教授の講演



写真4 吉田氏の講演

（文責：事業企画委員会 産総研 川邊禎久）